

コスモ石油株式会社

C, S M A I L

VOL. 55

株主通信《シーズ・メール》AUTUMN 2007





代表取締役会長（右）
岡部 敬一郎

岡部 敬一郎

代表取締役社長（左）
木村 彌一

木村 弥一

第102期（2008年3月期） 第1四半期財務・業績のご報告

たな卸資産の評価方法の影響により 売上原価を押し下げ増益

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第102期（2008年3月期）、第1四半期（2007年4月1日～6月30日）の財務・業績の概要をご報告するに当たり、ごあいさつ申し上げます。

当第1四半期における国内経済は、雇用情勢に厳しさが残るものの、国内企業の好調が家計部門へ波及し、国内民間需要に支えられた景気回復が続いています。当社の受入原油価格は、

2007年4月～6月平均1バレル63.98ドルとなり前年同期比0.57ドル上昇しました。為替は1ドル119.39円、前年同期比1ドル3.92円の円安で推移しました。コスモ石油単体の総販売数量は1,023万KL、前年同期比99.1%となりました。

当第1四半期の業績につきまして、事業セグメント別にご報告します。石油事業の内、石油製品事業については、原油価格は上昇しましたが、石油製品販売価格に十分に転嫁できる状況に至らなかったことや、製油所の保安強化に努めたことにより前年同期に比べ費用が増加したことなどのマイナスはありましたが、たな卸資産評価の影響による大幅な売上原価の押し下げなどによりプラスとなりました。石油化学事業では、設備増強による販売数量の増加や前年同期に比べマージンが改善したことで増益となりました。以上により石油事業は売上高7,423億円(前年同期比651億円増)、営業利益は147億円(同101億円増)となりました。

石油開発事業では、カタル石油開発(株)が商業生産を開始し収益に貢献しましたが、アブダビ石油(株)の販売数量が減少したことなどにより、売上高162億円(前年同期比3億円増)、営業利益は74億円(同17億円減)となりました。

その他の事業については、石油関連施設の工事・リース並びに保険などの事業においては、各事業とも合理化・効率化に努めた結果、売上高202億円(前年同期比27億円増)、営業利益は5億円(同3億円増)となりました。

以上の結果、連結消去などを加えた連結経営

■ 連結業績ハイライト			(単位:億円)
	2007年度 第1四半期	前年同期比	
連結売上高	7,603	685	
連結経常利益	223	84	
在庫評価の影響	197	113	
連結経常利益 (在庫評価の影響除く)	26	-29	
連結四半期純利益	131	83	

■ 事業区分別売上高及び営業損益 (当第1四半期:2007年4月1日～2007年6月30日) (単位:億円)

	石油事業	石油開発事業	その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高						
外部顧客に対する売上高	7,421	75	107	7,603	—	7,603
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	87	95	184	(184)	—
計	7,423	162	202	7,787	(184)	7,603
営業費用	7,276	88	197	7,561	(166)	7,395
営業利益	147	74	5	226	(17)	208

事業区分別売上高及び営業損益は億円未満を四捨五入しています。

成績は、売上高7,603億円（前年同期比685億円増）、営業利益は208億円（同81億円増）、経常利益は223億円（同84億円増）四半期純利益131億円（同83億円増）となりました。

コスモ石油単体では、売上高7,019億円（前年同期比793億円増）、営業利益は103億円（同80億円増）、経常利益は114億円（同86億円増）、四半期純利益は92億円（同73億円増）となりました。

2007年度、中間及び通期予想について

当中間期の連結及び個別業績見通しは、前回（2007年5月15日公表）の中間業績予想と比較し、原油価格が大幅に上昇したことによる石油事業における市況の悪化や需要の減少、また製油所の一部装置トラブルに伴う代替供給コスト負担の発生などのマイナス要因が見込まれますが、一方でたな卸資産の在庫評価の影響が大幅に増

加するなどのプラス要因もあり、前回中間業績予想の経常利益及び中間純利益については変動ありません。

また、連結及び個別の通期業績見通しについては、今後の需要動向や市況の動向など変動要因を考慮し現在精査中で、現時点では前回予想（2007年5月15日公表）を変更していません。

また、配当金についても前回（2007年5月15日公表）の予想値（中間3円/株、期末5円/株）を変更していません。

今後とも一層のご理解・ご支援を賜りますようお願いいたします。

2008年3月期の業績予想

（単位：億円）

《2007年8月3日公表》

●中間期（2007年4月1日～2007年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
単体	14,800	130	110	70
連結	15,800	400	420	170

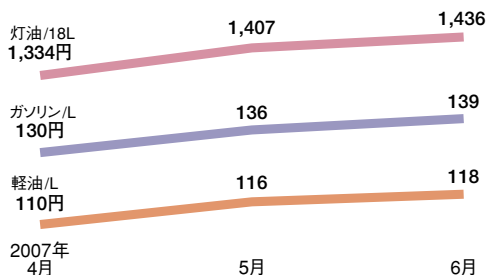
《2007年5月15日公表》

●通期（2007年4月1日～2008年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
単体	29,300	310	260	160
連結	31,600	890	880	370

石油製品市況

（消費税込価格）



出所：石油情報センター

業績予想の適切な利用に関するご説明

業績予想は、2007年8月3日時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

■ 四半期連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当第1四半期 (2007.4.1~2007.6.30)	前第1四半期 (2006.4.1~2006.6.30)	増減
売上高	7,603	6,918	685
売上原価	7,029	6,441	588
販売費及び一般管理費	366	351	15
営業利益	208	127	81
営業外収益	59	48	11
営業外費用	44	35	9
経常利益	223	139	84
特別利益	31	5	26
特別損失	5	5	-0
税金等調整前四半期純利益	249	139	110
法人税等	110	83	27
少数株主利益	9	8	1
四半期純利益	131	48	83

損益計算書の当第1四半期、前第1四半期は億円未満を四捨五入しています。

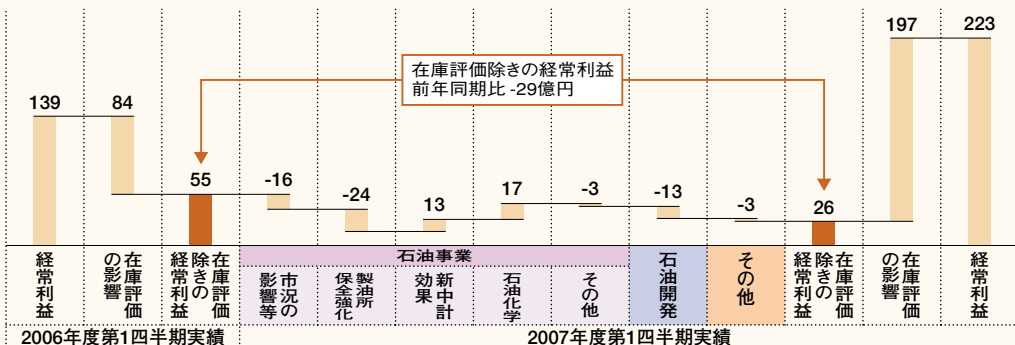
販売価格の上昇により増収

製油所の保全強化などにより減益

当第1四半期の売上高は、原油価格の上昇に伴う販売価格の上昇により前年同期比685億円の増収、連結経常利益は223億円で前年同期比84億円の増益、たな卸資産の在庫評価の影響を除いた経常利益は26億円となり、前年同期比29億円減益となりました。この29億円減益の内訳は、市況の悪化や製油所の保全強化で40億円のマイナス、新・連結中期経営計画による収益改善や石油化学事業の好況で30億円のプラスとなるなどにより、石油事業全体で13億円のマイナス、石油開発事業の販売数量減などにより13億円マイナス、その他連結会社で3億円のマイナスがあったことによるものです。四半期純利益は131億円となり、前年同期比83億円の増益となりました。

■ 連結経常利益前年同期比増減分析

(単位:億円)



Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

■ 四半期連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当第1四半期末 (2007.6.30)	前期末 (2007.3.31)	増減
資産の部			
流動資産	9,204	8,821	383
固定資産	6,971	6,971	0
有形固定資産	5,251	5,283	-32
無形固定資産	100	104	-4
投資その他の資産	1,620	1,583	37
資産合計	16,175	15,792	383
負債の部			
流動負債	8,508	8,118	390
固定負債	3,928	4,057	-129
負債合計	12,436	12,175	261
純資産の部			
株主資本	3,024	2,927	97
評価・換算差額等	495	470	25
少数株主持分	220	219	1
純資産合計	3,739	3,616	123
負債・純資産合計	16,175	15,792	383

貸借対照表の当第1四半期末、前期末は億円未満を四捨五入しています。

● 資産の部

総資産は、原油価格上昇に伴いたな卸資産が増加したことなどにより前期末比383億円増加しました。

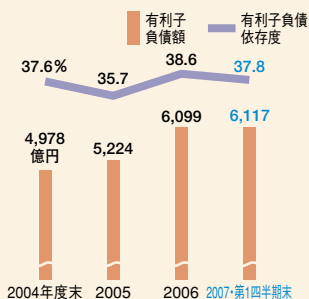
● 負債の部

負債は、原油価格上昇による短期借入金が増加などにより前期末比261億円増加しました。

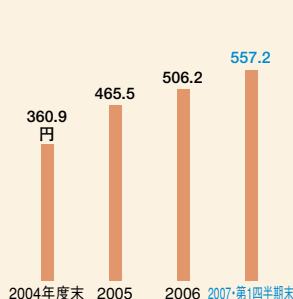
● 純資産の部

純資産は3,739億円となり、自己資本比率は21.8%となりました。

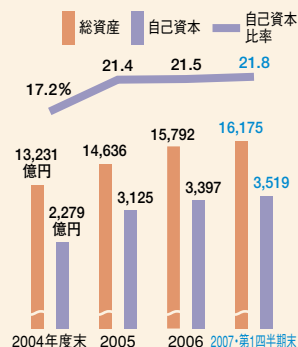
有利子負債額/依存度



1株当たり純資産



総資産・自己資本/比率



※2005年度以前は株主資本、株主資本比率を記載しています。

※自己資本=純資産-少数株主持分

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当第1四半期 (2007.4.1~2007.6.30)	前第1四半期 (2006.4.1~2006.6.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	50	-124
投資活動によるキャッシュ・フロー	-31	-57
財務活動によるキャッシュ・フロー	-22	132
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	1
現金及び現金同等物の増減額	-3	-49
現金及び現金同等物の期首残高	1,261	566
現金及び現金同等物の期末残高	1,258	518

キャッシュ・フロー計算書の当第1四半期、前第1四半期は億円未満を四捨五入しています。

■ 原油コスト・処理量、稼働率、販売数量

	単位	当第1四半期	前年同期比増減	前年同期比伸び率
受入原油	原油 (FOB) (ドル/バレル)	63.98	0.57	—
	為替レート (円/ドル)	119.39	3.92(円安)	—
	受入原油代(税込) (円/KL)	51,350	1,965	—
原油処理	原油処理量 (千KL)	6,353	-934	87.2 %
	トッパー稼働率 (CD%)*	69.1	-15.5	—
	トッパー稼働率 (SD%)*	84.6	-12.1	—

		前年同期比伸び率
国内 販売数量	ガソリン	106.1 %
	灯油	85.6 %
	軽油	104.4 %
	A重油	78.5 %
	4品計	97.6 %
	内需燃料油	101.5 %
	輸出数量	中間留分合計
総販売数量	総販売数量	99.1 %

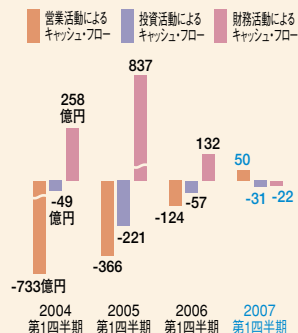
*CD% : 年間原油処理量 ÷ トッパー能力 ÷ 365日

*SD% : 年間原油処理量 ÷ トッパー能力 ÷ 実稼働日数

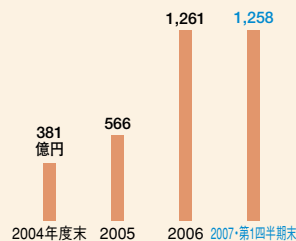
当第1四半期末の現金及び 現金同等物残高は、1,258億円

四半期キャッシュ・フローは、営業活動は、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費などの資金が、法人税等の支払いなどを上回り50億円のプラス、投資活動は、固定資産の取得による支出などにより31億円のマイナス、財務活動は配当金の支払いなどにより22億円のマイナス、当第1四半期末の現金及び現金同等物残高は前期末比3億円減少の1,258億円となりました。

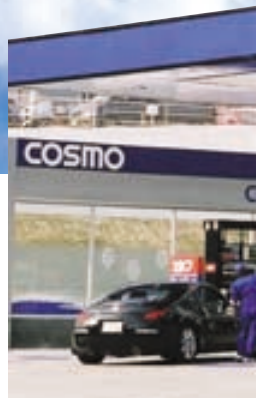
活動別キャッシュ・フロー



現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高



“ココロも満タンに” 宣言。



私たちコスモ石油が大切にしてきた
“ココロも満タンに”のスローガンを、
もっとお客様に実感していただきたい。
そんな想いからスタートしたのが、
この“ココロも満タンに”宣言です。
全国のコスモステーションでは、この宣言のもと、
一つひとつのサービスにしっかりと
これまで以上に取り組み始めています。



“ココロも満タンに” 宣言。

今回は、私たちが“ココロも満タンに”宣言したことをわかりやすく伝えていくためのテレビCMやSS店頭ポスターをご紹介します。まずは、コスモステーションの基本ともいべき“あいさつ”をテーマとして取り上げました。タレントの榮倉奈々さんが語る“あいさつ”の大切さ。それに応える形で登場する実際のサービスステーションのスタッフたち。私たちコスモ石油がその宣言に込めた想いを、榮倉奈々さんの共感あるメッセージとともに伝えていきたいと考え、制作しました。

テレビCM

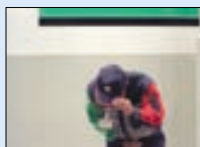
「あいさつ編」



“あいさつ”って大切ですよね…。



コスモ石油はしっかり“あいさつ”。気持ち良く使っていただいて気分良く出発していただくために。



たったひとつの“あいさつ”で元気になったり笑顔になったりしますもんネ…。



私たちのスローガンを、あなたとの約束に。



ココロを込めた“あいさつ”で…。



♪ココロも満タンに
コスモ石油



「ココロも満タンに」とは、エネルギーの安定供給を通してお客様が心豊かに、毎日の生活を送っていただくことが、コスモ石油が提供することのできる価値であることを示した言葉です。お客様一人ひとりにご満足いただける商品やサービスを提供できるように日々努力し、全社一丸となってお客様の「ココロも満タンに」するような製品、サービスを目指しています。

SS店頭ポスター

「ココロも満タンに」宣言



1. 当店では、クлинаップの行き届いた店舗で笑顔と挨拶で対応します。
 2. 当店では、品質の確かな商品とサービスを提供します。
 3. 当店では、お客様からのご質問に対し、責任を持ってお答えします。
- 当店は上記宣言をお客様にお約束します。

自然環境保護の大切さを体感する 清掃活動とエコトレッキングを実施

当社は、現在のところ最も利便性が高いと言われる石油エネルギーがもたらす「生活の質」とその石油エネルギーにより影響を受ける「地球の質」との適切なバランスを追求することで、持続可能な社会の実現を目指し、様々な地球環境対応を実施しています。その一環として、ラジオ局のTOKYO FM 及びJFN加盟38局とともに地球環境の保護と保全を呼びかけていく活動「コスモアースコンシャス アクト」を年間プログラムとして展開し、その活動のひとつとして全国の山、川、海、湖、公園などを舞台に自然と親しみながら清掃活動を行う「クリーン・キャンペーン」を実施しています。8月18、19日には、富士山の清掃活

動とエコトレッキングを行う「コスモアースコンシャスアクト クリーン・キャンペーン in Mt. FUJI」を実施し、全国のリスナー95名、パーソナリティ38名、当社及びJFN関係者57名が参加し、清掃活動を実施しました。当日は、アルピニストの野口健さんにもご参加いただき、NPO法人富士山クラブのご協力も得てプログラムを進めました。プログラム初日は、約2時間の清掃活動でガラスやビン・缶・セトモノの破片からトタン・テレビ・金網などの大型ゴミを回収し、合計で1.5トントラック2台分となる15,975リットルのゴミを回収しました。2日目は、富士山3合目から奥庭まで、苔で覆われた原生林の中を小鳥のさえずりを聞きながら、エコトレッキングを行い、富士山クラブのガイドの方々から動物の生態や植生などの説明を受け、富士山の自然の素晴らしさを体験していただきました。今回、このプログラムを通じて、参加者の方々に自然環境保護の大切さについて実感していただけたものと考えています。今後とも「コスモアースコンシャスアクト」の様々な活動を通じて、多くの方々に地球環境の大切さを伝えていく取り組みを推進してまいります。



日本全国にクリーン・キャンペーンの活動を広げていきます。

常務取締役 近藤直正

6回目を迎える富士山での清掃活動ですが、野口健さんにもご協力いただき、今回も全国各地から参加いただいたボランティアの皆さんの頑張りで大量のゴミを回収することができました。清掃活動後は皆さんの満足感と充実感に満ちたキラキラ輝いた顔がたいへん印象的でした。今回環境について皆さんが感じたことを周りの方にもメッセージとして伝えていただき、日本全国に活動の輪を広げていきたいと思っております。



アルピニストの野口健さんから環境保護に関する貴重な意見をお聞きしました



土の中から缶やセトモノの破片など沢山のゴミを掘り起こして回収しました



当社グループ社員を含め総勢190名が参加し、キャンペーンを盛り上げました



貴重な植生のある富士山の原生林を観察しながらエコトレッキングしました

参加した社員ボランティアの声



自然を破壊する行為は一瞬で簡単ですが、それをしたのは人間です。そして元通りにするのはとても難しいと実感しながらも、立ち向かうのは同じ人間でした。このクリーン・キャンペーンは私に、人間の良い面と悪い面の双方を垣間見せる、感慨深い体験を与え、富士の自然を今よりも美しくしたいという思いを深めた2日間でした。

参加した社員ボランティアの声



今回の清掃登山、富士山の美しさに感動した一方で、目を覆うばかりのゴミの量は本当に悲しい衝撃でした。私たちは地球に暮らしながら、何を未来へ受継いで行くのでしょうか？今後の日常でも「便利さ」よりも「地球を守る不便さ」を大切にしていきたいです。そしてもっと多くの方にこの素晴らしい活動を通して何かを変えるきっかけにもらえたら嬉しいです。

クリーン・キャンペーンの累計参加人数が10万人を突破！

地球環境保全活動の一環として2001年から取り組んできた「コスモアースコンシャスアクト」の活動も、これまで全国257ヶ所で清掃活動を行ってきましたが、9月の開催で参加者数が累計で10万人を超え210万リットルを超えるゴミを

回収しました。今後も引き続き、音楽やスポーツなどのエンターテインメント要素を付加していくことで、若者や親子の方々にも楽しみながら環境を学んでいただける機会を提供してまいります。

コスモ子ども地球塾

コスモ石油グループ社員による「第15回コスモわくわく探検隊」開催

当社は、小学生向けの環境教育プログラム「コスモ子ども地球塾」を年間プログラムとして展開し、子どもたちに自然環境の大切さを考える機会を提供しています。その活動の一環として、1993年より交通遺児の小学生を対象とした自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」を毎年開催しています。これは当社の事業特性から、企業市民として広義の車社会への還元を目的とし、子どもたちの心のケアとともに環境教育に重点をおいたオリジナルなプログラムで実施しています。15回目となる今年は、8月16日からの3日間、山梨県上野原市の「ゆずりはら青少年自然の里」で児童34名（独立行政法人自動車事故対策機構に登録しているご家庭の小学生）を対象に実施しました。



自然と親しみながら、素敵な思い出を作りました

今回は、「川で遊ぼう！君のアイデアで楽しさ無限大！！」をテーマに流れの緩やかな川で魚や水生昆虫の観察やヤマメのつかみ捕りなどを体験、また竹などの自然の材料から箸や皿、焼き魚用の串など自分の食器を作り、野外料理を楽しむなどのプログラムを実施しました。子どもたちには、普段の生活とは違う美しい自然を満喫しながら、自然への気づきと自ら行動するきっかけとな



ペットボトルや網を利用してヤマメを捕る仕掛けをみんなで作りました



水生昆虫などの観察をしながら、ヤマメのつかみ捕りなど川遊びを楽しみました



川で捕ったヤマメをさばいて、手作りの串に刺して野外料理を楽しみました



る環境教育プログラムを楽しんでもらいました。

運営に当っては、自然体験プログラムのプロフェッショナルなサポートスタッフに指導を受けたコスモ石油グループ社員14名が中心となり、3ヶ月にわたる準備期間を経て、子どもたちの安全・健康管理に努めました。今後とも同活動のほか、様々な社会貢献プログラムを展開してまいります。



木村社長（右）と田村執行役員（中）もプログラムに参加し、竹細工や川遊びなどを通じて子どもたちとふれ合いました



プログラムの最後に今回の活動内容を紙芝居にして、発表しました



コスモわくわく探検隊 隊長
コーポレートコミュニケーション部
広報室長

私自身にとって初参加となった今回、色々な意味で「わくわく」する貴重な体験となりました。プログラム全体を見てくださる社外サポートスタッフの方々、事前の泊り込み合宿を経てすっかり遅くなった社員ボランティアの面々、そして何よりも嬉々として川遊びに興じる子どもたち、彼等参加メンバーと密度の濃い3日間を過ごし終えた今、ぜひとも続けていきたい活動との思いを強くしています。



参加した社員ボランティアの声

自然体験を通じて子どもたちに学んでもらうため、業務の合間に事前研修をみっちり行い、わく探に臨みました。普段の生活では体験できない魚つかみや竹クラフトを体験し、子どもも大人も笑顔いっぱいの3日間でした。子どもたちの笑顔を通じて、私も何かを学ばせてもらったように思います。楽しみながら体験した一つひとつが子どもたちや私の成長の糧になっていると改めて感じました。



参加した社員ボランティアの声

子どもたちが魚つかみ作戦を考えている時の真剣なまなざし、そして魚をつかまえた時の歓声とキラキラの笑顔は、この夏の宝物です！数回の事前研修に加え、他の社員ボランティアと休日に川に行き、準備を進めました。子どもたちと楽しく過ごせたことはもちろん、別々の部署で働く社員とこの3日間を作り上げたことにも喜びいっぱいです。

コスモ子ども地球塾2007実施内容

2007年8月 第15回コスモわくわく探検隊
2007年8月 ハバとキッズのアートプログラム 松山開催

●年間プログラム 環境教育ウェブサイト「エコネッツ」
<http://www2.cosmo-oil.co.jp/econets/index.html>

当社が発表した最近のニュースについて、主な項目と一部の内容をお知らせします。
詳細は当社のホームページからご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.cosmo-oil.co.jp>

2007年

- 8月28日 お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラム
～世界でたった1つの絵本～」by MAYA MAXX (マヤ マックス)氏 松山で実施 ③
- 8月21日 第15回 コスモわくわく探検隊の実施報告
- 8月20日 コスモ アースコンシャス アクト「クリーン・キャンペーンin Mt.FUJI」の実施報告
- 8月9日 ムーディーズによる格付け Baa3に引き上げ ④
- 8月6日 2006年度コスモ石油エコカード基金活動報告書を発行 ②
- 8月6日 新潟県中越沖地震への社員募金ならびに寄付金の拠出について
- 7月31日 「高効率石油給湯機 エコフィール普及キャンペーン」(仮称)の実施
- 7月24日 お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラム
～世界でたった1つの絵本～」名古屋で実施
- 7月18日 総合エネルギーステーションの実現に向け水素ステーションでの
定置式燃料電池運用開始
- 7月4日 2006年度「コスモ・ガソリンマイレージ プレゼントコース」
キャンペーン抽選賞品当選者決定
- 7月3日 コスモ・ザ・カード「ドラえもん」キャンペーンのプレゼント抽選会を実施
- 6月29日 ニュースウィーク「世界企業ランキング」での上位ランクインについて ①
- 6月19日 お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラム
～世界でたった1つの絵本～」広島で実施
- 6月18日 コスモ・ザ・カード・オーバス「あなたに、いい夏、当たりますように。」キャンペーンについて

※ニュースの内容により色分けしています トピックス/CSR・環境/IR/社会貢献&メセナ活動
※上記の日付はプレスリリース日です

1

ニュースウィーク『世界企業ランキング』で上位ランクイン

世界的に注目されている雑誌、ニュースウィーク日本語版7月4日号の特集「世界企業ランキング」において、当社が総合評価106位、社会的責任評価11位、日本企業での総合ランキング20位と高い評価をいただきました。特に「環境」と「企業統治」が評価されました。これを機に、より一層、社会的責任（CSR）経営を強化推進していくことで、ステークホルダーの皆様への期待に応えてまいります。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_070629/index.html

2

コスモ石油エコカード基金 2006年度活動報告書を発行

コスモ・ザ・カード「エコ」会員様、コスモ・ザ・カード・オーパスエコ会員様からの寄付と当社グループ企業からの寄付で運営し、国内外で環境保全活動を展開している「コスモ石油エコカード基金」の2006年度活動報告書を発行しました。



エコカード基金活動報告書

▶ <http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/publish/ecoreport/index.html>
内容は、ホームページからもご覧いただけます。

3

「パパとキッズのアートプログラム ～世界でたった1つの絵本～」 松山で開催

当社は、様々な社会貢献活動に取り組んでいますが、現在は「健全な次世代育成」に注力しています。その一環として、昨今の少子化問題を鑑み父親の育児参加を応援することを目的に父子が参加できるワークショップ「パパとキッズのアートプログラム～世界でたった1つの絵本～」を8月26日、愛媛県美術館で開催しました。当日は、アーティストのMAYA MAXX（マヤ マックス）氏を講師と

して招き、父と子の共通体験を通してコミュニケーションを深めながら作品を制作するプログラムを実施しました。



子どもたちをナビゲートする
アーティストのMAYA MAXX氏

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_070828/index.html

4

ムーディーズによる格付けが 引き上げられました

世界的な格付け機関であるムーディーズ・インベスターズ・サービスによる当社の無担保長期債務格付及び発行体格付が「Ba1」から「Baa3」に引き上げられました。今回の格上げは、2007年4月18日以来の見直しとなります。尚、格付けの見直しは「安定的」とされています。

▶ <http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/announce/index.html>

Cover Story

カバーストーリー

ロンドン

英国の首都ロンドンは、18世紀後半産業革命による技術革新により産業や経済の大変革を成し遂げ、現在はEU諸国の中心として産業や金融界をリードしています。

アングロサクソンを中心に、ラテン・インド・アラブ・アフリカ系の住民も多い多民族都市です。テムズ川を中心にバッキンガム宮殿や大英博物館など多くの観光スポットがあり、世界中から多くの観光客が訪れます。

当社グループでは、英国コスモ石油(株)がこの地に拠点を構え、金融業務を中心に活動しています。

表紙イラスト 古田 忠男